

8404 われわれは「花が散る」・・・

われわれは

「花が散る」

「犬が猫を追いかけている」

「今日は十三日の金曜日である」

を十分有意味な文と考えているが、じっさいこの文の真偽が語られうるためには、たとえば、何時、何処で、かのような事件がおこったかを確定しなければならない。

坂井秀寿『日本語の文法と論理』

[許容訳例]

“Blossoms fall”; “A dog is chasing a cat”; “Today is Friday the thirteenth”: we regard these sentences as sufficiently meaningful, but it is not until we define, for instance, when and where such events happened that we can examine the truth of them.

[翻訳例]

One tends to regard statements such as “The blossom falls,” “The dog is chasing the cat” and “Today is Friday 13” as meaningful in themselves, but one cannot really discuss their truth or otherwise unless one first determines, for instance, when and where the events occurred.

■われわれは「花が散る」「犬が猫を追いかけている」「今日は十三日の金曜日である」を十分有意味な文と考えている(8404)

★「われわれは・・・」は we でもいいですが、一般論的な人を表す場合の we は、はっきりと筆者（話者）と相手の間に連帯感があるとか、一つのグループのような感じがあって、それをちょっと強調したい場合とかに使うといいのです。この場合も筆者と読者を今述べたような感じでとらえるなら we でもかまいません。その感覚がない場合には one を使った方がいいと思います。

◆冠詞の使い方

「花が散る」ですが、この場合、Blossoms fall. でも Blossom falls でもどちらでもかまいません。ただ、こういう前後関係のない文を一つの例として出す場合、英語では the を使うのが普通だと思います。なぜ the を付けるか考えてみると、結局、できるだけ抽象的な、あるいはわかりにくい要素を少なくするためにだと思います。the を付けることによって、一つの状況を述べることになるのです。たとえば、幼児のための絵本などではなるべくわかりやすくするために、つまり、一つの具体的な場面や絵があるという感じにするために、The cat sits on the mat. のように the を使うのです。たとえば、ビクトリア・リー・バートン(Victoria Lee Burton)の有名な『小さなお家』の英文のタイトルは *The Little House* です。しかし、

本文では、時とか場所が入るので具体的になりますから、お話は Once upon a time there was a Little House way out in the country. She was a pretty Little House and…と始まります。つまり、時のない A cat sits on a mat. は、非常に具体性がつかみにくいのです。同じようにここで Blossoms fall. とすると、何か漠然とした感じになって、読み方によって二つの意味になります。つまり、「花は散るものだ」という一般的性格を述べる意味と、「花が散る」という一つの状況を述べる意味です。これは「犬が猫を追いかけている」にも言えることです。A dog is chasing a cat. も間違いではありませんが、「どこかの犬がどこかの猫を追いかけている」ということを説明している感じになります。具体的なイメージを伝達するには The dog is chasing the cat. です。

★ 「今日は十三日の金曜日である」は Today is Friday(,) the thirteenth./ Today is Friday 13. です。

★ 「(われわれは) A を B と考える」は regard A as B です。A のところに三つの引用文を入れることになりますが、三つを纏めて sentences とか statements とかにする場合には、regard statements [sentences] such as “a,” “b” and “c” as B です。なお、regard の代わりに consider を使う場合は consider A as B (正用法と見なされてきていますが) より consider A to be B の方がいいです。また、look on A as B もありますが、これは一般的な話として、たとえば、He looks on women as inferior beings. というような場合に使います。ですから、ここのように一回一回の具体的な場合には使わないと思います。

★ 「・・・と考えている」は「・・・と考える」よりちょっと感じを和らげたいのだろうと思われます。その感じは英語にもあって、その感じを出すために、こういう場合には（習慣として）tend to regard…としたくなります。

●文技巧 (punctuation の問題)

「われわれは A, B, C を・・・と考えている」と引用文が三つ出でてきます。それぞれが「文」なのでピリオドを使うことになりますが、三つの引用文のピリオドをとって、最初の二つの quotation の外にセミコロンを置き、最後の quotation の後にコロンを付けます。この場合、セミコロンの代わりにコンマを使っても間違いではありませんが、区切りをはっきりさせるためにはセミコロンの方がいいと思います。それと最後のコロンは、たとえば次にもう少し詳しく説明しようとする場合とか、あるいは「即ち」という意味の場合とか、つまり矢印のような感じで次の文章へつなげていく場合に使うものです。

★ 「十分有意義な文」は sufficiently meaningful の他に、非常に英語らしい言い方として meaningful in themselves という表現も使えます。「それだけで十分意味をなす」という感じで、in themselves が「十分」に相当することになります。

●「逆接」[が]

この [が] は「逆接」と解していいでしょう。but でつなぎます。

■ じっさいこの文の真偽が語られうるためには、たとえば、何時、何処で、かのような事件がおこったかを確定しなければならない。(8404)

- ★ 「じっさい」はここでは「実に」の意味で使われいると思われる所以 really でしょう。
- ★ 「この文の真偽」は「これらの文の真偽」と解釈して、the truth or falsehood of them でもいいですが、of them の代わりに their を前に付けて their truth or otherwise [falsehood] とするのが一番いいと思います。
- ★ 「語られうる」ですが、「検討する；考える」という意味の examine でも間違いではありませんが、この「語る」の訳としては discuss (論じる) がいいと思います。
- ★ 「たとえば」は for example でも for instance でもかまいません。
- ★ 「何時、何処で、かような事件がおこったか」は厄介です。この著者はヴィトゲンシュタインの論文 (『論理哲学論考』) を共訳した人ですが、この日本語はちょっと拙劣です。まず、「この文の真偽」の「この」は例文を三つ挙げているのですから不自然ですし、「何時、何処で、かのような事件がおこったか」もおかしいです。「花が散る」と「犬が猫を追いかけている」は「時も場のない事件」でしょうが、「今日は十三日の金曜日である」は「時」であり「事件」ではありません。「かような」も、筆者は「個々の出来事」を念頭にして書いたのでしょうか、違和感を覚えます。仕方なく、ここは「何時、何処で、そのような出来事があったか」と解釈してを when and where such [the] events occurred [happened] としました。なお、event の代わりに happening は使えますが、動詞に happened を使うと、ちょっとまずいです。また、incident はそれこそ「何かの事故」ですから、三つの例文とちょっと合わないです。
- ★ 「確定する」は determine でしょう。これは to make clear; to find out for certain という意味です。

●文構造 (・・・うるためには・・・しなければならない)

「・・・うるためには・・・しなければならない」は、いくつか定型的な言い方があります。まず、It is not until one does something that one can…が使えます。他には One cannot do something until…、あるいは One cannot do something without first doing…とか In order to be able to…, one must [it is necessary to] …などが使えます。最後の In order to be able to…の代わりに If one is to (be able to)…も使えます。たとえば、If one is to understand the Japanese way of thinking, one must live in the country many years.のように使います。それから、ちょっと文学的で難しいかもしれませんが Only when…, one can…という形もあります。これは日本語の「・・・してはじめて・・・できる」に相当します。